

【2】薬効類似に関するヒヤリ・ハット

一般名や血中動態、作用機序などの薬学的性質が異なる薬剤であっても、同じ薬効を有する薬剤がある。それらの薬剤に様々な規格、剤形が存在し、またそれぞれに異なるブランド名や製造販売業者名（会社名）から成る販売名が付され、さらに後発医薬品も存在するものがあることなどによって、同じ薬効を有する薬剤にも様々な医薬品が存在している。

薬剤師は調剤業務において、効率よく正確に調剤を行うために、処方せんに記載された医薬品の販売名や規格、剤形のほかに、個別の多くの薬剤の薬効を知識として習得し、薬効も手がかりとして処方された薬をピックアップしている。長く研鑽を積んだ薬剤師ほど、個別薬剤の薬効に精通し、薬効が重要なピックアップの手がかりになるとも考えられる。

薬剤に関する医療事故の背景・要因には、本年報の「名称類似に関するヒヤリ・ハット」で分析したように、名称の類似性が挙げられ、その他にも医薬品のシートの色や形が類似する外観の類似性も挙げられ、それらは製品としての医薬品のモノとしての性質である。そのため、医療安全推進の観点から、必要に応じ名称の変更やシートの変更が行われてきたが、薬効は医薬品の薬学的性質であり、変更することは出来ない。

本事業では、調剤者が医薬品の効能や効果を意識して調剤していることが背景・要因になったと考えられるヒヤリ・ハット事例が報告されている。そこで、平成21年年報において、「薬効類似に関するヒヤリ・ハット」をテーマとして取り上げて、薬効が類似していることにより薬剤を取違えた事例について集計、分析を行い、その結果を公表した。しかしその後も薬効類似に関するヒヤリ・ハット事例は多く報告されていることから、本事業の総合評価部会において、継続して報告されていることの重要性や、経年的な変化を集計分析することの重要性などが指摘された。

そこで、本年報においても「薬効類似に関するヒヤリ・ハット」について集計、分析し、また、平成21年年報で分析したデータとの比較なども行った。

1) 薬効類似の考え方

薬効が同じでも、医薬品の成分つまり一般名や薬学的性質が異なると、薬剤を取違えた場合に意図した薬効を得ることができない可能性がある。一方で、薬効が同じであり、かつ、一般名や薬学的性質も同じであれば、異なる販売名の薬剤を取違えても、同じ薬効を得られる可能性が高く、患者の健康に与える影響は少ないと考えられる。

そこで本分析では、一般名や薬学的性質は異なるが、「2）薬効類似の医薬品と個別医薬品コードとの関係」で述べる分類上の薬効が同じであることを「薬効類似」とした。そしてその薬剤を「薬効が類似している医薬品」または「薬効類似に関する医薬品」とした。

2) 薬効類似の医薬品と個別医薬品コードとの関係

薬効は、「【1】名称類似に関するヒヤリ・ハット 2) 本年報における医薬品の薬効の考え方」で述べたとおり、「個別医薬品コード」（通称：Y J コード）」に基づいて決定した。

つまり本分析でも、「個別医薬品コード」に基づいて、先頭4桁が示す「薬効分類」を「薬効」とした。また、「個別医薬品コード」の先頭2桁を「作用部位、成分」、先頭3桁を「主たる薬効」、個別医薬品コードの先頭4桁を「薬効」とし、これらを「薬効等」と表記した。

ただし、個別医薬品コードの6桁まで一致する医薬品の組み合わせで、さらに7桁以降も一致する場合は、一般名が一致することを示しているため、「1) 薬効類似の考え方」に従って、このような個別医薬品コードの6桁までの一致に加えて7桁以降も一致する医薬品やその事例は「薬効類似」から除いた。

したがって、「薬効類似の医薬品」とは、個別医薬品コードの、1) 先頭から4桁のみが一致するもの、2) 先頭から5桁のみが一致するもの、3) 先頭から6桁のみが一致するもの、のいずれかに該当する医薬品をいう。

3) 報告件数及び報告された医薬品数

平成22年1月1日から平成22年12月31日までに報告されたヒヤリ・ハット事例のうち、「事例の概要」が「調剤」とされた事例のうち、調剤の「事例の内容」が「薬剤取違い」として報告された事例は、1,372件であった。

「薬剤取違い」の事例の報告項目には「処方された医薬品」と「間違えた医薬品」の項目がある。「処方された医薬品」と「間違えた医薬品」に入力された販売名に対応する個別医薬品コードの先頭から、1) 4桁のみが一致、2) 5桁のみが一致、3) 6桁のみが一致していた事例を、薬効類似に関する事例とした。これを集計したところ364事例あり、「薬剤取違い」に占める割合は26.5%であった。

図表2-1 報告件数

	件数	
	平成22年	平成21年
「薬剤取違い」の事例	1,372	171
薬効類似に関する事例	364	58

また、薬効類似に関する事例の中で報告された医薬品の品目数を集計したところ365件あった。

図表 2-2 薬効類似の医薬品品目数

	品目数	
	平成 22 年	平成 21 年
「薬剤取違い」の事例	1,372	171
薬効類似に関する事例	365	58

4) 薬効類似に関する医薬品の分析

(1) 医薬品名及び薬効

薬効類似に関する医薬品について、医薬品の名称及び薬効等を整理して以下に示す。

図表 2-3 医薬品名及び薬効 (①：作用部位、成分、②：主たる薬効、③：薬効)

処方された医薬品	間違えた医薬品
①中枢神経系用薬	
②催眠鎮静剤、抗不安剤	
③ベンゾジアゼピン系製剤	
ハルシオン 0.25mg 錠	レンドルミン錠 0.25mg
アサシオン 0.25mg 錠	エバミール錠 1.0
サイレース錠 1mg	コンスタン 0.4mg 錠
セバゾン錠 2	2mg セルシン錠
2mg セルシン錠	セバゾン錠 2
エリスパン錠 0.25mg	ワイパックス錠 0.5
メレックス錠 1mg	メイラックス錠 1mg
②解熱鎮痛消炎剤	
③フェニル酢酸系製剤	
ボルタレン錠 25mg	ボルタレンサボ 25mg
ボルタレンサボ 25mg	ボルタレンSR カプセル 37.5mg
③その他の解熱鎮痛消炎剤	
ロキソニン錠 60mg	ソレトン錠 80
ソレトン錠 80	ロキソニン錠 60mg
ソレトン錠 80	ロキソニン錠
ライベック錠 200	セレコックス錠 100mg
②精神神経用剤	
③イミプラミン系製剤	
アナフラニール錠 10mg (ハイリスク薬)	トフラニール錠 10mg (ハイリスク薬)

処方された医薬品		間違えた医薬品	
③その他の精神神経用剤			
リーゼ錠 5 m g (ハイリスク薬)		デパス錠 0. 5 m g (ハイリスク薬)	
テトラミド錠 1 0 m g (ハイリスク薬)		デパス錠 0. 5 m g (ハイリスク薬)	
トレドミン錠 2 5 (ハイリスク薬)		ジェイゾロフト錠 2 5 m g (ハイリスク薬)	
トレドミン錠 2 5 m g (ハイリスク薬)		デプロメール錠 2 5 (ハイリスク薬)	
ジェイゾロフト錠 2 5 m g (ハイリスク薬)		ルボックス錠 2 5 (ハイリスク薬)	
②総合感冒剤			
幼児用 P L 配合顆粒		P L 配合顆粒	
①末梢神経系用薬			
②局所麻酔剤			
③その他の局所麻酔剤			
スルカイン錠 1 0 0 m g		ストロカイン錠 5 m g	
②鎮けい剤			
③その他の鎮けい剤			
リンブラール錠 5 0 m g		エンチニン錠 1	
①感覚器官用薬			
②眼科用剤			
③眼科用コルチゾン製剤：コルチゾン点眼液及び眼軟膏剤			
フルメトロン点眼液 0. 1 %		リンデロン点眼・点耳・点鼻液 0. 1 %	
③その他の眼科用剤			
ミケラン点眼液 2 %		ニフラン点眼液 0. 1 %	
カリーユニ点眼液 0. 0 0 5 %		サンコバ点眼液 0. 0 2 %	
カリーユニ点眼液 0. 0 0 5 %		キサラタン点眼液 0. 0 0 5 %	
カリーユニ点眼液 0. 0 0 5 %		ヒアレイン点眼液 0. 1 %	
サンコバ点眼液 0. 0 2 %		クラビット点眼液 0. 5 %	
ソフティア点眼液 0. 0 2 %		人工涙液マイティア点眼液	
ヒアレイン点眼液 0. 1 %		カリーユニ点眼液 0. 0 0 5 %	
ティアバランス点眼液 0. 1 %		アズレン点眼液 0. 0 2 % 「わかもと」	
ティアバランス点眼液 0. 1 %		人工涙液マイティア点眼液	
タリビッド眼軟膏 0. 3 %		ネオメドロール E E 軟膏	
タリビッド点眼液 0. 3 %		クラビット点眼液 0. 5 %	
リザベン点眼液 0. 5 %		ニフラン点眼液 0. 1 %	
トルソプト点眼液 1 %		エイゾプト懸濁性点眼液 1 %	

処方された医薬品		間違えた医薬品
	トルソプト点眼液 1 %	トスフロ点眼液 0.3 %
	キサラタン点眼液	ルミガン点眼液 0.03 %
	ラタノプロスト点眼液 0.005 % 「わかもと」	ルミガン点眼液 0.03 %
	ラタノプロスト P F 点眼液 0.005 % 「日点」	ザラカム配合点眼液
	ハイパジールコーワ点眼液 0.25 %	パタノール点眼液 0.1 %
	ハイパジールコーワ点眼液 0.25 %	ノフロ点眼液 0.3 %
	リボスチン点眼液 0.025 %	ベガモックス点眼液 0.5 %
	エイゾプト懸濁性点眼液 1 %	トルソプト点眼液 1 %
	オゼックス点眼液 0.3 %	ガチフロ点眼液 0.3 %
	タブロス点眼液 0.0015 %	トラバタンズ点眼液 0.004 %
	エコリシン眼軟膏	エコリシン点眼液
	人工涙液マイティア点眼液	ティアバランス点眼液 0.1 %
	点眼・点鼻用リンデロンA液	リズモンTG点眼液 0.5 %
②耳鼻科用剤		
③その他の耳鼻科用剤		
	リノコートパウダースプレー鼻用 25 μ g	リボスチン点鼻液 0.025 mg 112 噴霧用
	タリビッド耳科用液 0.3 %	ロメフロン耳科用液 0.3 %
	スカイロン点鼻液 50 μ g 28 噴霧用	ノスラン点鼻液 2 %
①循環器官用薬		
②血圧降下剤		
③その他の血圧降下剤		
	アテレック錠 10	オルメテック錠 10 mg
	シルニジピン錠 10 mg 「タイヨー」	アテノート錠 10
	プロプレス錠 8	ディオバン錠 80 mg
	プロプレス錠 8	ランデル錠 20
	ディオバン錠 40 mg	ミカルデイス錠 40 mg
	ミカルデイス錠 20 mg	ディオバン錠 20 mg
	ミカルデイス錠 40 mg	ディオバン錠 40 mg
	ミカルデイス錠 40 mg	ディオバン錠 80 mg
	オルメテック錠 20 mg	ディオバン錠 40 mg
	セララ錠 50 mg	ナトリックス錠 2
	エカード配合錠 LD	プロプレス錠 4
	エカード配合錠 HD	プロプレス錠 8
	コディオ配合錠 EX	ディオバン錠 80 mg
②血管収縮剤		
	ゾーミッグRM錠 2.5 mg	マクサルトルPD錠 10 mg

処方された医薬品	間違えた医薬品
②血管拡張剤	
③冠血管拡張剤	
ニトロベン舌下錠 0.3 mg	ニトロール錠 5 mg
ニトロダーム TTS	フランドルテープ 40 mg
②高脂血症用剤	
③その他の高脂血症用剤	
メバロチン錠 5	リピトール錠 5 mg
リボバス錠 5	リピトール錠 10 mg
シンバスタチン錠 5 「MEEK」	リバロ錠 1 mg
リピトール錠 5 mg	リボバス錠 5
リピトール錠 5 mg	メバロチン錠 5
リピトール錠 10 mg	メバロチン錠 10
リバロ錠 1 mg	プラバチン錠 10
クレストール錠 2.5 mg	リピトール錠 5 mg
クレストール錠 2.5 mg	メバロチン錠 10
クレストール錠 5 mg	リピトール錠 5 mg
①呼吸器官用薬	
②鎮咳剤	
③その他の鎮咳剤	
フスコデ配合錠	カフコデN配合錠
②鎮咳去たん剤	
③その他の鎮咳去たん剤	
メジコン配合シロップ	濃厚プロチンコデイン配合シロップ
②気管支拡張剤	
③その他の気管支拡張剤	
ホクナリンドライシロップ 0.1% 小児用	メプチンドライシロップ 0.005%
メプチンエアー 10 μ g	キュパール 100 エアゾール
②その他の呼吸器官用薬	
フルタイド 100 ディスカス	アドエア 100 ディスカス 60 吸入用
フルタイド 50 μ g エアゾール 120 吸入用	アドエア 50 エアゾール 120 吸入用
アドエア 100 ディスカス 60 吸入用	フルタイド 100 ディスカス
アドエア 50 エアー 120 吸入用	フルタイド 50 エアー
アドエア 50 エアー 120 吸入用	フルタイド 50 μ g エアゾール 120 吸入用
アドエア 50 エアゾール 120 吸入用	フルタイド 50 μ g エアゾール 120 吸入用
①消化器官用薬	
②止しゃ剤、整腸剤	

処方された医薬品		間違えた医薬品	
③活性生菌製剤			
エンテロノーンR 散		ラックビー微粒N	
ビオフェルミンR		ミヤBM細粒	
ビオフェルミンR 散		ビオフェルミン配合散	
ビオフェルミンR 散		ビオフェルミン錠剤	
ビオフェルミンR 錠		ビオスリー配合錠	
ビオフェルミンR 錠		ビオフェルミン錠剤	
ミヤBM細粒		ビオフェルミンR 散	
ミヤBM錠		ラックビー微粒N	
ビオフェルミン		ビオフェルミンR 散	
ビオフェルミン配合散		ラックビー微粒N	
ビオフェルミン配合散		ビオフェルミンR 散	
ビオフェルミン配合散		ビオスリー配合散	
ビオフェルミン配合散		ビオフェルミン錠剤	
ラックビー微粒N		ビオフェルミン配合散	
ラックビー微粒N		ビオフェルミンR	
ビオスリー散		ビオフェルミン配合散	
ビオフェルミン錠剤		ビオフェルミンR 錠	
②消化性潰瘍用剤			
③H2遮断剤			
ガスポート錠20mg		ストガー錠10	
③その他の消化性潰瘍用剤			
ノイエル細粒40%		ケルナック細粒8%	
ソロン錠50		イサロン錠100mg	
セルベックス		ムコスタ	
セルベックスカプセル50mg		ムコスタ錠100mg	
セフタックカプセル50		レバミピド錠100mg「NP」	
ケルナックカプセル80mg		ムコスタ錠100mg	
アブレース錠100mg		ソロン錠50	
ウルグートカプセル200mg		ムコスタ錠100	
ムコスタ錠100mg		ケルナックカプセル80mg	
オメプラール錠20		パリエット錠20mg	
タケプロンOD錠15		パリエット錠10mg	
パリエット錠10mg		オメプラール錠10	
アルロイドG内用液5%		アルサルミン内用液10%	
②制酸剤			

処方された医薬品		間違えた医薬品
③無機塩製剤：炭酸水素ナトリウム等		
酸化マグネシウム錠 330mg 「モチダ」		重質酸化マグネシウム 「ホエイ」
②その他の消化器官用薬		
③他に分類されない消化器官用薬		
ナウゼリン錠 10		ナウゼリン坐剤 10
ナウゼリン錠 10		プリンペラン錠 5
ケナログ口腔用軟膏 0.1%		デキサルチン口腔用軟膏 1mg/g
①ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）		
②混合ホルモン剤		
③卵胞ホルモン、黄体ホルモン混合製剤		
ソフィアA配合錠		プラノバル配合錠
②その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）		
③すい臓ホルモン剤		
ノボリン30R注フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボラピッド30ミックス注フレックスペン (ハイリスク薬)
ノボリン30R注フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボラピッド注フレックスペン (ハイリスク薬)
ヒューマログミックス50注キット (ハイリスク薬)		ノボラピッド50ミックス注フレックスペン (ハイリスク薬)
ヒューマログ注ミリオペン (ハイリスク薬)		ノボラピッド注300フレックスペン (ハイリスク薬)
ノボラピッド注300フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボリンR注100 (ハイリスク薬)
ノボラピッド注フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボリン30R注フレックスペン (ハイリスク薬)
ノボラピッド注フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボリンR注フレックスペン (ハイリスク薬)
ノボラピッド30ミックス注フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボリン30R注フレックスペン (ハイリスク薬)
ノボラピッド50ミックス注フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボリン50R注フレックスペン (ハイリスク薬)
ランタス注ソロスター (ハイリスク薬)		ノボリンN注フレックスペン (ハイリスク薬)
レベミル注フレックスペン (ハイリスク薬)		ノボラピッド注フレックスペン (ハイリスク薬)
①泌尿生殖器官及び肛門用薬		
②痔疾用剤		
③その他の痔疾用剤		
ポステリザン（軟膏）		強力ポステリザン（軟膏）
プロクトセディル坐薬		プロクトセディル軟膏

処方された医薬品		間違えた医薬品	
	プロクトセディル軟膏		ネリプロクト軟膏
	強力ポステリザン（軟膏）		ポステリザン（軟膏）
	ボラザG軟膏		強力ポステリザン（軟膏）
	ネリプロクト坐剤		プロクトセディル坐薬
②その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬			
	エビプロスタット錠		セルニルトン錠
①外皮用薬			
②化膿性疾患用剤			
③外用抗生物質製剤：ペニシリン軟膏等			
	フシジンレオ軟膏2%		ゲンタシン軟膏0.1%
	ダラシンTゲル1%		ゲンタシン軟膏
②鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤			
③副腎皮質ホルモン製剤			
	ネリゾナ軟膏		リンデロン-V軟膏0.12%
	レダコートクリーム0.1%		メサデルムクリーム0.1%
	デルモベートクリーム0.05%		ネリゾナユニバーサルクリーム
	デルモベートクリーム0.05%		アンテベートクリーム
	リドメックスコーワクリーム		ロコイドクリーム0.1%
	ダイアコート軟膏0.05%		レダコートクリーム0.1%
	マイザー軟膏0.05%		アルメタ軟膏
	スチブロンクリーム0.05%		スピラゾンクリーム0.3%
	アルメタ軟膏		キンダベート軟膏0.05%
	アルメタ軟膏		フルメタ軟膏
	エクラーローション0.3%		メサデルムローション0.1%
③その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤			
	ハップスターID70mg		セルタッチパップ70
	インテナースパップ70mg		セルタッチパップ70
	オイラックスクリーム10%		オイラックスHクリーム
	スタデルム軟膏		アンダーム軟膏5%
	ミルタックスパップ30mg		セルタッチパップ70
	ミルタックスパップ30mg		インテナースパップ70mg
	モーラステープ20mg		ロキソニンテープ50mg
	モーラステープL40mg		ロキソニンテープ100mg
	モーラスパップ60mg		ロキソニンパップ100mg
	スミルスチック3%		スチックゼノールA
	セルタッチパップ70		アドフィードパップ40mg

処方された医薬品		間違えた医薬品
	セルタッチパップ	セラスターテープ70
	セルタッチパップ70	イドメシンコーワパップ70mg
	セルタッチパップ70	カトレップパップ70mg
	マルチネスパップ70mg	ロキソニンパップ100mg
	スミルテープ35mg	モーラステープL40mg
	アドフィードパップ40mg	モーラステープ20mg
	アドフィードパップ40mg	モーラステープL40mg
	アドフィードパップ40mg	セルタッチパップ70
	ファルケンテープ40mg	スミルテープ35mg
	ヤクバンテープ20mg	タッチロンテープ20
	ボルタレンゲル1%	イドメシンコーワゲル1%
	ジクロフェナクNaローション1%「ラクール」	スミルローション3%
	ボルタレンテープ15mg	ロキソニンテープ100mg
	ボルタレンテープ15mg	モーラステープ20mg
	ボルタレンテープ30mg	モーラステープL40mg
	ロキソニンゲル1%	ボルタレンゲル1%
	グリメサザン軟膏	デルマクリンA軟膏1%
	MS温シップ「タイホウ」	MS冷シップ「タイホウ」
	スチックゼノールA	スミルスチック3%
	MS冷シップ「タイホウ」	MS温シップ「タイホウ」
	MS冷シップ「タカミツ」	MS温シップ「タカミツ」
②寄生性皮膚疾患用剤		
③イミダゾール系製剤		
	ルリコンクリーム1%	ニゾラルクリーム2%
①ビタミン剤		
②ビタミンK剤		
	ケーワンカプセル10mg	グラケーカプセル15mg
①滋養強壮薬		
②無機質製剤		
③鉄化合物製剤（有機酸鉄を含む。）		
	フェロ・グラデュメット	フェロミア錠50mg
	たん白アミノ酸製剤	
③その他のたん白アミノ酸製剤		
	エンシュア・リキッド	エンシュア・H
	エンシュア・H	エンシュア・リキッド
①血液・体液用薬		

処方された医薬品		間違えた医薬品	
②その他の血液・体液用薬			
③他に分類されない血液・体液用薬			
パナルジン錠		バファリン配合錠A 8 1	
チクピロン錠1 0 0 mg		シロステート錠1 0 0	
パナルジン錠1 0 0 mg		バイアスピリン錠1 0 0 mg	
プレタール錠1 0 0 mg		プロレナール錠5 μ g	
プロレナール錠5 μ g		プレタール錠5 0 mg	
プロサイリン錠2 0		プロレナール錠5 μ g	
バイアスピリン錠1 0 0 mg		バファリン配合錠A 8 1	
バイアスピリン錠1 0 0 mg		バファリン	
バイアスピリン錠1 0 0 mg		バファリン（8 1）	
バファリン8 1 mg 錠		バイアスピリン錠1 0 0 mg	
バファリン配合錠A 8 1		バイアスピリン錠1 0 0 mg	
①その他の代謝性医薬品			
②肝臓疾患用剤			
③その他の肝臓疾患用剤			
プロルモン錠2 0 mg		グリチロン配合錠	
②痛風治療剤			
③その他の痛風治療剤			
ユリノーム錠2 5 mg		ウラリット配合錠	
②糖尿病用剤			
③スルフォニル尿素系製剤			
グリミクロン錠4 0 mg （ハイリスク薬）		ダオニール錠2. 5 mg （ハイリスク薬）	
グリミクロンHA錠2 0 mg （ハイリスク薬）		オイグルコン錠2. 5 mg （ハイリスク薬）	
③その他の糖尿病用剤			
グルコバイ錠5 0 mg （ハイリスク薬）		セイブル錠5 0 mg （ハイリスク薬）	
グルコバイ錠5 0 mg （ハイリスク薬）		グルファスト錠1 0 mg （ハイリスク薬）	
ボグリボースOD錠0. 3 mg 「サワイ」 （ハイリスク薬）		セイブル錠5 0 mg （ハイリスク薬）	
グルファスト錠1 0 mg （ハイリスク薬）		グルコバイ錠5 0 mg （ハイリスク薬）	
②他に分類されない代謝性医薬品			
③他に分類されないその他の代謝性医薬品			
フォサマック錠5		エビスタ錠6 0 mg	

処方された医薬品		間違えた医薬品	
	ボナロン錠 5 mg		ボノテオ錠 1 mg
	アクトネル錠 17.5 mg		フォサマック錠 35 mg
	ベネット錠 17.5 mg		ボナロン錠 35 mg
	エビスタ錠 60 mg		フォサマック錠 5
	ボノテオ錠 1 mg		ボナロン錠 5 mg
①腫瘍用薬			
②その他の腫瘍用薬			
③その他の抗悪性腫瘍用剤			
	フェアストーン錠 40 (ハイリスク薬)		フェマーラ錠 2.5 mg (ハイリスク薬)
①アレルギー用薬			
②抗ヒスタミン剤			
③その他の抗ヒスタミン剤			
	ペリアクチン錠 4 mg		ポララミン錠 2 mg
②その他のアレルギー用薬			
	アレジオン錠 10		ジルテック錠 10
	エバスチン錠 10 mg 「J G」		ヘルボッツ錠 10
	エバステルOD錠 10 mg		シングレアチュアブル錠 5 mg
	ジルテック錠 10		エバステル錠 10 mg
	ジルテック錠 10		シングレア錠 10 mg
	セチリジン塩酸塩錠 10 mg 「タイヨー」		エバスチンOD錠 10 mg 「タイヨー」
	タリオン錠 10 mg		クラリチン錠 10 mg
	タリオンOD錠 10 mg		エバステルOD錠 10 mg
	アレグラ錠 60 mg		アレロック錠 5
	アレグラ錠 60 mg		エピナスチン塩酸塩錠 20 mg 「タイヨー」
	アレグラ錠 30 mg		アレロック錠 2.5
	アレロック錠 2.5		アレグラ錠 30 mg
	アレロック錠 5		アレグラ錠 60 mg
	アレロック錠 5		アレロオフ錠 20
	クラリチン錠 10 mg		タリオン錠 10 mg
①漢方製剤			
	ツムラ黄連解毒湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ桂枝茯苓丸エキス顆粒（医療用）
	ツムラ葛根湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ葛根湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ補中益気湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ麻黄附子細辛湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ加味逍遙散エキス顆粒（医療用）

処方された医薬品	間違えた医薬品
ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ辛夷清肺湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ加味逍遙散エキス顆粒（医療用）	ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）
ツムラ桔梗湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ葛根湯エキス顆粒（医療用）
コタロー桔梗石膏エキス細粒	コタロー梔子柏皮湯エキス細粒
ツムラきゅう帰膠艾湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ桂枝加芍薬湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ桂枝加芍薬大黄湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ桂枝加芍薬大黄湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ桂枝加芍薬湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ桂枝茯苓丸加よく苡仁エキス顆粒（医療用）	ツムラ桂枝茯苓丸エキス顆粒（医療用）
ツムラ五苓散エキス顆粒（医療用）	ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒（医療用）
ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ柴胡桂枝乾姜湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ柴胡清肝湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ柴胡桂枝湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ柴朴湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ柴朴湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ柴苓湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ柴朴湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ四君子湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ六君子湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ四物湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ四逆散エキス顆粒（医療用）
ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）
ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ十全大補湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ小柴胡湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ苓甘姜味辛夏仁湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ小柴胡湯加桔梗石膏エキス顆粒（医療用）	ツムラ小青竜湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ小青竜湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ麦門冬湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ小半夏加茯苓湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ大黄甘草湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ猪苓湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ釣藤散エキス顆粒（医療用）
ツムラ桃核承気湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ排膿散及湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ当帰飲子エキス顆粒（医療用）	ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）
ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）	ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）	ツムラ温清飲エキス顆粒（医療用）
ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）	ツムラ当帰建中湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）	クラシエ芍薬甘草湯エキス細粒
ツムラ人参湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ消風散エキス顆粒（医療用）
ツムラ八味地黄丸エキス顆粒（医療用）	ツムラ五苓散エキス顆粒（医療用）
クラシエ半夏厚朴湯エキス細粒	ツムラ半夏瀉心湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ茯苓飲合半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ半夏瀉心湯エキス顆粒（医療用）
ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒（医療用）

処方された医薬品		間違えた医薬品	
	テイコク半夏厚朴湯エキス顆粒		テイコク半夏瀉心湯エキス顆粒
	ツムラ半夏瀉心湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ半夏白朮天麻湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ白虎加人參湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（医療用）
	ツムラ茯苓飲合半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ五苓散エキス顆粒（医療用）
	ツムラ補中益気湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）
	コタロー麻黄湯エキス細粒		ツムラ六君子湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ麻黄湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ麻黄附子細辛湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ麻杏甘石湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ麻杏よく甘湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ麻子仁丸エキス顆粒（医療用）		ツムラ十全大補湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ抑肝散エキス顆粒（医療用）		ツムラ加味逍遙散エキス顆粒（医療用）
	ツムラ抑肝散エキス顆粒（医療用）		コタロー梔子柏皮湯エキス細粒
	ツムラ抑肝散エキス顆粒（医療用）		ツムラ疎経活血湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ抑肝散加陳皮半夏エキス顆粒（医療用）		ツムラ滋陰降火湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ苓甘姜味辛夏仁湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ苓桂朮甘湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ苓桂朮甘湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ苓姜朮甘湯エキス顆粒（医療用）
	ツムラ苓桂朮甘湯エキス顆粒（医療用）		ツムラ六味丸エキス顆粒（医療用）
	ツムラ立効散エキス顆粒（医療用）		ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）
①抗生物質製剤			
②主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの			
③セフェム系抗生物質製剤			
	ケフレックスカプセル250mg		ケフラールカプセル250mg
	ケフラールカプセル250mg		ケフレックスカプセル250mg
	セフゾン細粒小児用10%		フロモックス小児用細粒100mg
	セフゾンカプセル100mg		フロモックス錠100mg
	セフジニルカプセル100mg「日医工」		セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「サワイ」
	メイアクトMS錠100mg		フロモックス錠100mg
	フロモックス		セフゾン
	フロモックス錠100mg		セフゾンカプセル100mg
	セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「サワイ」		セフジトレンピボキシル細粒10%小児用「日医工」
②主としてグラム陽性・陰性菌、リケッチア、クラミジアに作用するもの			
③テトラサイクリン系抗生物質製剤			
	ビブラマイシン錠50mg		ミノマイシン50mg
①化学療法剤			
②合成抗菌剤			
③ピリドンカルボン酸系製剤			

処方された医薬品		間違えた医薬品
	クラビット錠 250mg	ジェニナック錠 200mg
②抗ウイルス剤		
	バラクルード錠 0.5mg	レベトールカプセル 200mg

※ 「漢方製剤」は他の医薬品と異なり、実質的な薬効が類似しない場合でも個別医薬品コードの先頭4桁に同じコードが設定されている場合がある。

※ 「ハイリスク薬」の選定には、平成21年11月に日本薬剤師会がまとめた「ハイリスク薬の薬学的管理指導に関する業務ガイドライン（第1版）」において、「Ⅱ．投与時に特に注意が必要と考えられる以下の治療領域の薬剤」に列挙されている治療領域の薬剤を参考とした。

（2）薬効別に見た取違えた薬剤の組み合わせ

薬効類似の事例の組み合わせが多かったものは、外皮用薬の「その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」に関するものが32通りと多く、次に感覚器官用薬の「その他の眼科用剤」が26通りであった。このように外用薬が多かった。

そこで次に、内服薬について見ると、ビオフェルミンなどの「活性生菌製剤」が17通り、アレグラなどの「その他のアレルギー用薬」が15通りと多かった。なお、漢方製剤は、個々の個別医薬品コードの先頭4桁が「5200」であるため、本分析では「薬効類似」に該当するが、先頭4桁が示す「薬効」が同じ場合であっても、実質的な薬効が大きく異なることがあることに留意が必要である。

これらについて、さらに薬効ごとに医薬品の組み合わせを見て、多かった組み合わせ、報告が多かった医薬品名、名称類似の要素のある組み合わせなどについて分析した結果を整理して以下に示す。

図表2-4 薬効が類似する医薬品の組み合わせのパターンと内容

薬効	パターン数	内容
その他の眼科用薬剤	26	○様々な組み合わせがあり、特に多い組み合わせや特に多く報告された薬剤はなかった。 ○ブランド名の名称類似の要素があると考えられる組み合わせが多かった。例えば、「ミケラン」と「ニフラン」、「ソフティア」と「人工涙液マイティア」、「ティアバランス」と「人工涙液マイティア」、「タリビッド」と「クラビッド」、「トルソプト」と「エイゾプト」などがあった。 ○販売名に「%」が含まれてる取り違えの組み合わせが18通りあり、そのうち「%」の数字が同じであったものは、4通りのみであった。そのうちブランド名は類似していないと考えられたものは2通りあり、「カリーユ二点眼液0.005%とキサラン点眼液0.005%」と「オゼックス点眼液0.3%とガチフロ点眼液0.3%」であった。

薬効	パターン数	内容
その他の血圧降下薬	13	○「ディオバン」と「ミカルディス」の組み合わせが4通りであり多かった。両者はいずれもアンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤であった。 ○医薬品単位では、「ディオバン」が7件であり最も報告が多かった。ついで「プロプレス」「ミカルディス」が4件ずつであった。いずれもアンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤であった。 ○「エカード配合錠LD」と「プロプレス錠4」、「エカード配合錠HD」と「プロプレス錠4」は名称の類似性は低い、成分の一般名として「カンデサルタン シレキセチル」が共通しており、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤であった。 ○「コディオ配合錠EX」と「ディオバン錠80m」も、成分の一般名として「バルサルタン」が共通しており、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤であった。
その他高脂血症用剤	10	○様々な組み合わせがあり特に多い組み合わせはなかった。 ○医薬品単位では、「リピトール」が7件であり最も報告が多かった。次いで「メバロチン」が4件、「クレストール」が3件であり、これらの薬剤がエラーに関与した薬剤の大半を占めた。 ○医薬品単位では、いずれもHMG-CoA還元酵素阻害薬であった。
活性生菌製剤	17	○ブランド名が「ビオフェルミン」同士の組み合わせが7通りあり、最も多かった。「ビオフェルミン」の「錠剤」「R錠」「R散」「配合散」がこれらの組み合わせを構成していた。 ○「ビオ」から始まる販売名の組み合わせで集計すると、9通りあり、過半数を占めた。 ○医薬品単位では、「ビオフェルミン」が22件であり最も報告が多かった。
その他の消化性潰瘍用剤	13	○様々な組み合わせがあり、特に多い組み合わせはなかった。 ○医薬品単位でも、最も多かった「ムコスタ」でも5件など、様々な医薬品の報告があった。 ○ブランド名が異なり、さらに「カプセル」と「錠剤」といった剤形の違いも伴う組み合わせが5通りあった。
すい臓ホルモン剤	11	○全てインスリンであり、ハイリスク薬であった。 ○「ノボリン」と「ノボラピッド」の組み合わせが7通りあり、最も多かった。 ○医薬品単位では、様々な医薬品の報告があった。 ○ブランド名では、「ノボラピッド」が10件で最も多く、次いで「ノボリン」が8件であり、これらで大半を占めた。 ○混合型インスリン同士の組み合わせは4通りあり、いずれも速攻型と中間型の割合を示す数字「30」「50」は一致していた（例：「ノボリン30R注フレックスペン」と「ノボラピッド30ミックス注射フフレックスペン」など）。

薬効	パターン数	内容
副腎皮質ホルモン 製剤	1 1	○様々な組み合わせがあり、特に多い組み合わせはなかった。 ○医薬品単位でも、最も多かった「アルメタ」でも3件など、様々な医薬品の報告があった。 ○「軟膏」「クリーム」「ローション」といった剤形は10通り中全てが同じであった。 ○ブランド名の名称類似の要素があると考えられる組み合わせが4通りあり、「デルモベート」と「アンテベート」、「ダイアコート」と「レダコート」、「スチブロン」と「スピラゾン」、「アルメタ」と「フルメタ」であった。 ○販売名に有効成分量の含量を％で表示した数値が含まれる医薬品同士の組み合わせが4通りあり、その数値が同じであったのは1通りのみであった。
その他の鎮痛、鎮痒、 収斂、消炎剤	3 2	○様々な組み合わせがあり、特に多い組み合わせはなかった。 ○医薬品単位では、「モーラス」「セルタッチ」がそれぞれ8件と最も多かった、次いで「ロキソニン」6件、「ボルタレン」5件など、様々な医薬品の報告があった。 ○「テープ剤」「パップ剤」「クリーム」「軟膏」などの剤形は32通り中29通りが同じであった。 ○名称類似の要素があると考えられる組み合わせとして、「MS温シップ」と「MS冷シップ」の組み合わせがあったが3通りのみであった。他に「オイラックスクリーム」と「オイラックスHクリーム」があった。
他に分類されない 血液・体液用薬	1 1	○「バイアスピリン」と「バファリン」の組み合わせが5通りあり、最も多かった。 ○医薬品単位でも、「バファリン」が6通り、「バイアスピリン」が5通りであり多かった。 ○販売名に含まれる規格が含まれている医薬品同士の組み合わせが9通りあったが、規格を示す数字が同じであったのは2通りのみであった。
漢方製剤	5 9	○漢方製剤全体で見ると、販売名のうち製造販売業者名（会社名）以降の文字が2文字以上一致していたものが、11通りあった（例：「ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒（医療用）」と「ツムラ加味逍遙散エキス顆粒（医療用）」など）。

(3) 再び報告された薬効類似の医薬品の組み合わせ

平成21年年報の「薬効類似に関するヒヤリ・ハット」における分析で報告された薬効類似に関する医薬品のうち、平成22年も再び報告された販売名の組み合わせを以下に示す。

図表2-5 再び報告された薬効類似の医薬品の組み合わせ

医薬品の組み合わせ		件数
ディオバン錠40mg	ミカルディス錠40mg	11
ロキソニン錠60mg	ソレトン錠80	2
カリーユニ点眼液0.005%	ヒアレイン点眼液0.1%	2
MS冷シップ「タイホウ」	MS温シップ「タイホウ」	2
タリオン錠10mg	クラリチン錠10mg	2
ツムラ小青竜湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ麦門冬湯エキス顆粒（医療用）	2
アナフラニール錠10mg （ハイリスク薬）	トフラニール錠10mg （ハイリスク薬）	1
テトラミド錠10mg （ハイリスク薬）	デバス錠0.5mg （ハイリスク薬）	1
ナウゼリン錠10	プリンペラン錠5	1
ボラザG軟膏	強力ポステリザン（軟膏）	1

平成21年集計に引き続き、再び本年報でも報告された医薬品の組み合わせは10通り、25件あった。そのうち、「ディオバン錠40mgとミカルディス錠40mg」を取違えた組み合わせが11件であり、最も多かった。

それらの薬効類似の事例の背景・要因をみると、薬を取り間違えた背景・要因の記載されていないものが多かったが、背景・要因の記載があった事例では、①普段から取り間違いをしやすいためそれぞれの薬を調剤台から離れた場所に保管してあるにもかかわらず、調剤者が思い込み調剤した、②類似した効能を持つ薬であったため取違えた、③薬の規格である「40」しか見ていなかった、など、薬効の類似性だけでなく販売名を十分確認せずに調剤していたことも報告されていた。

(4) 発生場面別報告件数

薬効類似に関する事例について、「発生場面」ごとに集計を行った。

図表 2-6 発生場面と報告件数

発生場面	報告件数（割合）	ヒヤリ・ハット事例の件数（割合）
内服薬調剤	197（54.1％）	7,070（58.4％）
外用薬調剤	96（26.4％）	1,519（12.6％）
注射薬調剤	11（3.0％）	56（0.5％）
その他の調剤に関する場面	60（16.5％）	3,455（28.6％）
計	364（100％）	12,100（100％）

薬効類似に関する事例のうち、外用薬調剤の報告件数の割合（26.4％）及び注射薬調剤の報告件数の割合（3.0％）は、ヒヤリ・ハット事例全体における外用薬調剤の報告件数の割合（12.6％）及び注射薬調剤の報告件数の割合（0.5％）と比較して多かった。特に、注射薬調剤で取違えた薬剤は全てインスリン製剤であり、ハイリスク薬であった。

また、その他の調剤に関する場面としては、レセプト用コンピュータへの入力間違いが多く報告されていた。

(5) 発生場面と医薬品の交付の有無、治療の程度

薬効類似に関する事例について、「発生場面」、医薬品の交付の有無を示す「実施の有無」及び「治療の程度」について集計を行った。

図表 2-7 発生場面と実施の有無、治療の程度に関する集計

発生場面	実施の有無 治療の程度	実施あり			実施なし	計
		軽微な治療	治療なし	不明		
内服薬調剤		1	8	14	174	197
外用薬調剤		2	6	8	80	96
注射薬調剤		2	1	4	4	11
その他の調剤に関する場面		0	14	3	43	60
計		63			301	364

薬効類似に関する事例のうち、患者に医薬品を交付したことを示す「実施あり」が選択されていた事例は364件中63件であった。特に注射薬調剤については、「実施あり」が11件中7件であり、その中には、軽微な治療を要した事例が2件あった。

(6) 医薬品を交付した主な事例の内容

患者に医薬品を交付した主な事例の内容等を以下に示す。その中には、薬の棚段を換え、左右に離して保管していたにも関わらず、再度、ハイリスク薬であるノボリン30R注フレックスペンとノボラピッド30ミックス注フレックスペンを間違えて調剤、交付してしまった事例（事例3）などが報告されていた。

事例の内容 等
【事例1】 （事例の内容） フスコデ配合錠が処方されていたがカフコデN配合錠を調剤し、鑑査者も気付かずそのまま渡してしまった。後日、調剤者が間違いに気がつき交換した。 （背景・要因） 調剤者は、ピッキングの直前にカフコデN配合錠の理論在庫と現在庫のズレを確認していたため、処方箋のフスコデ配合錠をカフコデN配合錠と思い込んでしまった。鑑査者は咳止めで処方されているということに気を取られてしまい、薬の確認が不十分であった。 （改善策） 調剤者は注意力が散漫となっている時のピッキングは声だし確認などを行い、頭の中だけで考えることをしない。鑑査者は薬と薬剤情報提供書を照らし合わせ、視覚的に確認を行う。
【事例2】 （事例の内容） ボルタレンテープ15mgが35枚で処方されているところ、モーラステープ20mgを35枚で投薬してしまった。後日、当該薬を使用する際に患者が間違えていることに気づき、連絡があった。薬を取替えるために来局していただいた。 （背景・要因） 当薬局ではボルタレンテープ15mgよりもモーラステープ20mgを調剤することが多かったため、思い込みをした。 （改善策） 当該患者の薬歴に「モーラステープ20mgと間違えやすい、注意。」と記載した。
【事例3】 （事例の内容） 週2回の注射薬の在庫管理チェックをしていた時、ノボリン30R注フレックスペンが2本多く、ノボラピッド30ミックス注フレックスペンが2本少なかったことに気づいた。そこで、薬剤使用者リストを検索すると、当該患者と推測されたため、すぐに連絡した。幸い、そのまま冷蔵庫に保管しており、未使用であった。すぐに患者宅に取替えに行き、お詫びをした。 （背景・要因） 以前に間違えたこともあり、ノボリン30R注フレックスペンとノボラピッド30ミックス注フレックスペンは棚段を換えて左右に離して置いていたにも関わらず発生した。注意不足と考えられる。 （改善策） 注射薬点検が役に立ったため、これからも継続していく。注射薬ラベルと処方せん、薬歴の確認を再度徹底する。

事例の内容 等
【事例４】 （事例の内容） スタデルム軟膏のところ、誤ってアンダーム軟膏５％と入力した。 （背景・要因） 皮膚科からの処方箋であった。いつもの約束処方だと思い込み、約束処方の入力方法で入力してしまった。再度確認したつもりだったが、当該薬である一種類の薬が変更されていることに気づけなかった。 （改善策） いつもの薬と思い込まず、入力する前に確認する。

（７）医薬品を交付しなかった理由、主な事例の内容

医薬品を交付しなかったことを示す「実施なし」と報告された事例では、①ダブルチェックや鑑査の際に間違いに気がついた、または②交付時に患者と共に確認していたために間違いに気づいた、事例などが報告されていた。

上記のうち、患者に医薬品を交付しなかったことを示す「実施なし」の主な事例の内容等を以下に示す。

事例の内容 等
【事例１】 （事例の内容） バイアスピリン錠１００ｍｇ１錠／分１、３５日分処方のところ、バファリン配合錠Ａ８１で調剤してしまった。鑑査者が気づき、患者には正しい処方であるバイアスピリン錠１００ｍｇを渡した。 （背景・要因） 調剤者の不注意でバイアスピリン錠１００ｍｇとバファリン配合錠Ａ８１を取り間違えた。同薬効群であるため棚が近くに並んでいた。棚も上下で近く、名前も類似していた。鑑査時においても確認を怠った。思い込みによるミスであった。今回の調剤ミスは度重なって発生している。 （改善策） バイアスピリン錠１００ｍｇ、バファリン配合錠Ａ８１のいずれかの薬が処方された時は重点的に確認する。
【事例２】 （事例の内容） モーラステープＬ４０ｍｇの処方のところ、ロキソニンテープ１００ｍｇを調剤した。再確認した際に誤りに気付いた。 （背景・要因） モーラステープＬ４０ｍｇの未開封の箱の上にロキソニンテープ１００ｍｇが置いてあった。未開封の箱の名称のみ確認しロキソニンテープ１００ｍｇを調剤した。モーラステープＬ４０ｍｇとロキソニンテープ１００ｍｇの薬棚の配置は隣同士であった。 （改善策） 配置場所について注意喚起した。

事例の内容 等
【事例 3】 (事例の内容) ヒューマログミックス 50 注キットを 1 キット投薬するところ、誤ってノボラピッド 50 ミックス注フレックスペンを調剤してしまった。服薬指導時に患者から指摘を受けて初めて誤りに気が付いた。 (背景・要因) 処方せんに記載された処方薬の名称をしっかりと確認していなかった。販売名の「50」の文字に気が取られてしまい、調剤する頻度が高いノボラピッド 50 ミックス注フレックスペンを調剤してしまった。 (改善策) 処方せん、薬歴、レセコンの入力内容、薬袋等に記載されている薬剤名及び数量の確認、調剤した薬剤名及び数量の確認を必ず行い、未然に投薬ミスを防止するよう努める。
【事例 4】 (事例の内容) ビブラマイシン錠 50 mg をミノマイシン 50 mg と入力した。別のスタッフが点検時に発見した。 (背景・要因) 焦って入力した。 (改善策) 見直しを確実に行う。

5) 薬局から報告された主な改善策

(1) 確認方法

(i) 確認の手順

- 思い込みがないように一文字ずつ、つき合わせて鑑査する。
- 薬と薬剤情報提供書を照らし合わせ、視覚的に確認を行う。
- 投薬前の患者を呼ぶ前に一呼吸おき、再度確認を行う。

(ii) 処方せんの活用

- 漢方薬調剤時は、処方せんの横の空欄に製品番号と医薬品名、包数を記入する。
- 患者と行う確認
- 患者と薬の確認をした後、薬を薬袋へ入れる。

(2) 入力間違いの防止

- 前回の処方内容を引用した時は、特に注意して一文字ずつ確認する。
- 入力作業が終わり、印刷する前に入力内容を再度確認する。

(3) 医薬品の配置

- 薬を配置する場所を変えるなどの改善を行う。
- 冷蔵庫の棚を整理整頓する。

(4) 業務中断後の再開

- 調剤業務を中断した時には、もう一度最初から見直しを行う。

(5) 注意喚起

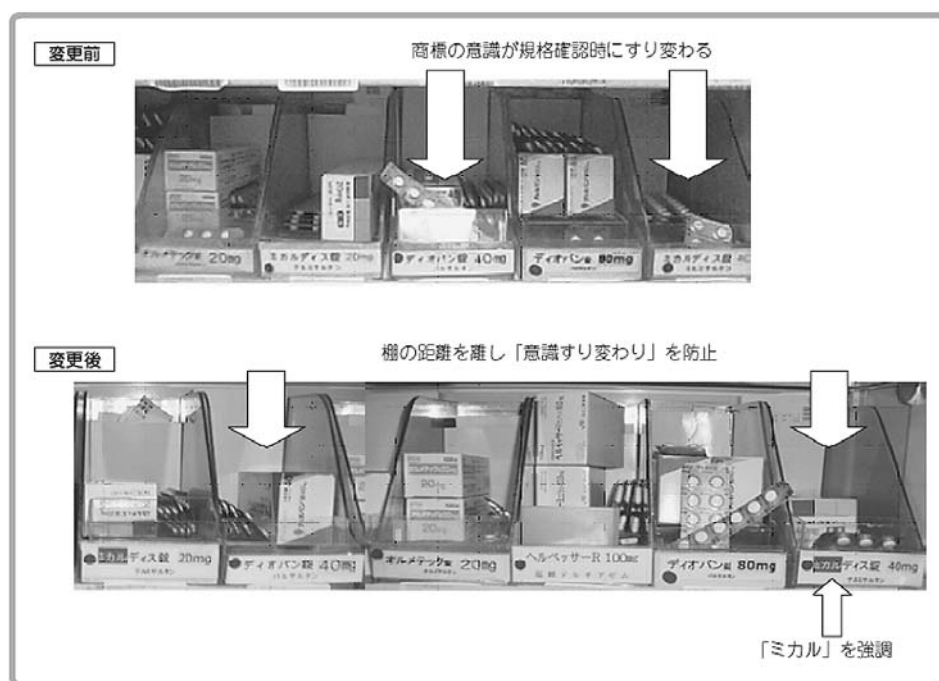
- 取違い注意を促すことを表示した札を薬棚につける。
- 類似した販売名の薬があることを注意喚起する。

(6) その他

- 一旦手を止めた後、一息ついて落ち着いてから調剤する。

6) 医療機関における再発防止の取り組みの例

北原ら¹⁾は、ミカルディス錠40mgとディオバン錠40mgのように、販売名に明らかな類似性がないにもかかわらず、同一薬効、同一規格の薬剤を取り間違えることに対して、棚の配置を変え、かつ販売名を交錯して認識することがないように、棚表示を強調するという再発防止策を報告している。



北原加奈之ら、第9回ヒヤリ・ハット事例を活用した調剤業務の安全対策。月刊薬事。52(5):713-716, 2010から引用

7) 考察

(1) 薬効類似に関する事例の報告件数等

- 「薬剤取違い」として報告された事例1,372件で報告された「処方された医薬品」と「間違えた医薬品」の組み合わせのうち、販売名の個別医薬品コードの先頭4桁、5桁または6桁が一致していた事例を薬効類似に関する事例、その医薬品を薬効類似に関する医薬品とし、医薬品の品目数を集計したところ365件あり、「薬剤取違い」の事例数に対する品目数の割合は26.6%であった。

(2) 薬効類似に関する事例の主たる薬効、医薬品名等

- 薬効類似の医薬品について、多く報告された医薬品名の組み合わせや、名称の類似性、薬学的性質などを分析した。主たる薬効として、間違えた医薬品の組み合わせを多く有していたものには、「その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」「その他の眼科用薬剤」「活性生菌製剤」「その他の血圧降下薬」「その他の消化性潰瘍用剤」などがあった。
- 「その他の眼科用薬剤」の組み合わせには、ブランド名の名称類似の要素があると考えられる組み合わせが多かった。例えば、「ミケランとニフラン」、「ソフティアと人工涙液マイティア」、「ティアバランスと人工涙液マイティア」、「タリビッドとクラビッド」、「トルソプトとエイゾプト」などがあった。
- 「その他の血圧降下薬」では、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤が多く、例えば、「エカード配合錠LDとプロプレス錠4」、「エカード配合錠HDとプロプレス錠4」は名称の類似性は低いですが、成分の一般名として「カンデサルタンシレキセチル」が共通しており、これはアンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤であった。したがって、薬効の類似性による取違いの可能性が高いと考えられた。「その他高脂血症用剤」の医薬品も、いずれもHMG-C o A還元酵素阻害薬であった。
- 「副腎皮質ホルモン製剤」では、様々な医薬品の「軟膏」「クリーム」「ローション」といった剤形は11通り中10通りが同じであった。このように、外皮用剤の剤形は、医薬品を識別する情報として有効に機能している可能性が高いと考えられた。また、販売名に有効成分量の含量を%で表示した数値が含まれる医薬品同士の組み合わせが4通りあり、その数値が同じであったのは1通りのみであった。この数値は調剤や鑑査における識別情報としてはあまり活用されていない可能性が示唆された。
- 「その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」でも、「テープ剤」「パップ剤」「クリーム」「軟膏」などの剤形は32通り中29通りが同じであったことから、このことも外皮用剤の剤形が薬剤の識別情報として有効に機能していることを示唆する結果であると考えられた。
- 「他に分類されない血液・体液用薬」では、「バイアスピリンとバファリン」の組み合わせが5通りあり、最も多かった。販売名に含まれる規格が含まれている医薬品同士の組み合わせが9通りあったが、規格を示す数字が同じであったのは2通りのみであったことから、調剤や鑑査の際にはこの数値を識別情報としては活用されていない可能性が示唆された。

（３）再び報告があった薬効類似の医薬品の組み合わせ

- 平成２１年集計に引き続き本年報の集計においても報告された医薬品の組み合わせが２５件あり、前回と同じ販売名の組み合わせに関する薬剤取違いが繰り返し、または過去に報告があった薬局とは異なる薬局からの報告があった。具体的な医薬品の組み合わせとしては、特に「ディオバン錠４０ｍｇとミカルディス錠４０ｍｇ」を取違えた事例が１１件あり、最も多かった。このように、販売名に明らかな類似性が見られないにもかかわらず、同一薬効、同一規格の薬剤を取り間違えることに対しては、「６）医療機関における再発防止の取り組みの例」に示した通り、薬局でも、販売名を交錯して認識することが起きないように、薬の棚の並び順が隣接しないように変更する、薬の棚の表示を一部強調するなどの対策が有用であると考えられた。

（４）薬効類似に関する事例の発生場面

- 薬効類似の事例３６４件のうち、「発生場面」別では、外用薬調剤及び注射薬調剤の割合が平成２２年の報告件数に占めるそれぞれの割合と比較して大きかった。薬効類似に関するヒヤリ・ハット事例には、それらの領域の薬剤が多く関与していると考えられた。薬効別に見た医薬品名の分析の中では、「副腎皮質ホルモン製剤」「その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」「その他の眼科用薬剤」が外用薬調剤に該当した。また、全ての医薬品がインスリンであった「すい臓ホルモン剤」が注射薬調剤に該当した。これらの薬剤は、特に薬効を重視した調剤や鑑査が行われていることが示唆された。
- 「発生場面」における「実施の有無」「治療の程度」では、注射薬調剤において患者に実施した割合が６３．６％（１１件中７件）であり、全ての「発生場面」における「実施あり」の割合１７．３％（３６４件中６３件）と比較して多かった。このことは、平成２１年年報の分析テーマで取り上げた「個別薬剤に関するヒヤリ・ハット」の中の注射用製剤の分析である「インスリン製剤に関する事例」（６５－６８ページ）でも、同様の結果であった。したがって、インスリン製剤に関する薬効類似の事例では、患者に医薬品を交付する可能性が高いことが示唆された。また、そのことにより医療事故につながる可能性もあり、薬効類似の医療事故を防ぐ対策を導入し、継続的に実施する必要がある領域の薬剤であると考えられた。

（５）薬局から報告された改善策

- 薬局から報告された改善策としては、確認に関すること、入力間違いの防止に関すること、配置方法に関すること、業務中断時の再開に関すること、注意喚起に関すること、などが報告された。具体的には、思い込みがないように一文字ずつき合わせて鑑査する、薬と薬剤情報提供文書を照らし合わせ、視覚的に確認を行う、薬を配置する場所を変えるなどの改善を行う、調剤業務を中断した時にはもう一度最初から見直しを行う、取違い注意を促すことを表示した札を薬棚につける、など、薬局において導入可能な改善策であると考えられた。これらを確実に、かつ継続的に実施することの重要性が示唆された。棚の配置の改善については、同じ趣旨の内容を掲載した文献を引用し、具体的な医療機関における対策を紹介した。

8) まとめ

薬効類似の事例や、その中で報告された医薬品に関して集計、分析した。

その中では、処方された医薬品と間違えた医薬品を薬効別に集計、分析した。特に前回の年報に引き続き、本年報でも繰り返し報告があった医薬品の組み合わせを示した。

発生場面別のヒヤリ・ハット事例の報告件数や発生場面と実施の有無、治療の程度の関連性について集計した。また、それぞれの分析では、薬局から報告があったヒヤリ・ハット事例の具体的な事例の内容を紹介した。

さらに、薬局から報告があった主な改善策や医療機関における再発防止への取り組みの例について紹介した。

薬効が類似する医薬品のヒヤリ・ハット事例は、「調剤指針」でも記載されているように、調剤経験が少ない職員に限らず、調剤経験が豊富な職員等、幅広い職員に見られる事例である。日頃から、繰り返しヒヤリ・ハット事例として報告されている医薬品の組み合わせに関する情報を薬局内で共有し、さらに本年報で解説した分析内容や再発防止策を活用して、薬局内で発生するエラーの防止に努めることが重要である。

9) 参考資料

1. 北原加奈之, 田中克巳, 有賀徹, 村山純一郎. 第9回 ヒヤリ・ハット事例を活用した調剤業務の安全対策. 月刊薬事. 52(5): 713-716, 2010